

# 平成26年度 三戸郡 小学校視聴覚研究会 報告書

## 1 研究主題

学習効果を高め、基礎・基本の確かな定着を図るためのICT活用の研究

## 2 主題設定の理由

学習指導要領の総則では、「情報教育」及び「教科指導におけるICT活用」の充実が述べられている。特に「基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学習に取り組む態度を養うためには、児童がコンピュータや情報通信ネットワーク等の情報手段を適切に活用できるようにすることが重要である。また、教師がこれらの情報手段や視聴覚教材、教育機器などの教材・教具を適切に活用することが重要である。」とある。

ICTの活用には、「学習指導の準備と評価のための教師によるICT活用」、「授業での教師によるICT活用」、「児童によるICT活用」の3つが挙げられるが、本研究会ではこれまでの授業研究において、主に教師が授業のねらいを実現するためのICT機器の効果的な活用を図ってきた。

これまで、日常の授業で実践できるよう、とりわけ実物投影機やプロジェクターといった簡易な機器の活用に重点を置いて研究を続けてきた。その結果、ICT活用の目的を明確にもち、何をどのようにどれくらい見せるかを工夫することで、学習効果が高まることが成果として明らかになってきている。さらに、昨年度の授業実践や研修会においてフラッシュ型教材へも取り組み、学習の定着のためのICT活用の有効性や工夫についても、今後研究すべき点として確認された。

上記のICT活用を踏まえ、その効果的な活用について、教科指導のなかで「基礎基本の定着を図る」ことに重点を置き、さらに研究を深めていきたい。

## 3 研究目標

基礎基本の確かな定着を図るため、学習意欲を高めたり、知識や技能を身につけさせたりするICTの効果的な活用を、授業実践を通して明らかにする。

## 4 研究仮説

学習指導の中の発問や指示等において、ICTの特性を踏まえ、活用を工夫していくことにより、より効果的に学習意欲を高めたり、知識や技能を身につけさせたりすることができる。

※主に、以下について授業計画及び授業実践、研修会を行う。

- ・指導の意図を明確したICT活用と発問・指示等の吟味。
- ・ICTの特性の理解と、活用による効果の検証。

## 5 研究内容

### (1) 研究経過

4月18日(金) 第1回役員研修会

5月2日(金) 郡小中教研総会(三戸町立小中一貫三戸学園小中学校)

5月20日(火) 第2回役員研修

7月30日(水) 夏季研修会(新郷村立戸来小学校)

「続・フラッシュ型教材」

講師：石井一二三(八戸市立是川小学校教諭)

9月19日(金) 第1回指導案検討会

10月14日(火) 第2回指導案検討会

10月24日(金) 教材研究会 兼 第3回役員研修会

11月13日(木) 郡小学校教研Ⅱ群研究発表会

会場 階上町立階上小学校

教科・単元名 5・6年生 体育科 器械運動「跳び箱運動 台上前転」

授業者 工藤 和宏（階上町立階上小学校教諭）

指導・助言者 鈴木 稔（三八教育事務所指導主事）

12月26日（木） 冬季研修会（南部町立向小学校）

研究発表：菅原 章二（五戸町立紙市川小学校教諭）

## （2） 郡小学校教育Ⅱ群研究発表会の記録及び助言

### ①本時の目標

- ・台上前転で、膝を伸ばした大きな動きをするために工夫して運動することができる。

### ②研究仮説との関わり

- ・タブレット端末機を使って自分の試技を見せることで、自分のイメージと実態を重ね合わせ、技の向上につながると考える。（お手本や自分の試技を見て、技向上につながるポイントを見つけ、練習に生かしている。）
- ・映像を基に話し合う場を設定することで、具体的に教え合ったり確認し合ったりして、意欲の向上につながると考える。（友だちと教え合う場面で、積極的に確かめたり教えたりしている）

### ③ICT活用の工夫及び特性

- ・お手本（大きな台上前転）のポイントを確認…（動機づけ・資料説明、情報の共有）
- ・自分（友だち）の技の修正ポイントの確認…（比較・指示の明確化）
- ・意見交換（教え合い、話し合い）…（資料提示・コミュニケーション）
- ・技能の伸びの確認…（比較、振り返り、意欲の向上）

### ④指導助言

- ・跳び箱運動は動きが速く、ポイントを教えづらい題材であるが、一時停止の機能等を活用することでより理解が深まった。
- ・タブレットPCの活用により、自分の伸びの振り返りが容易になり、意欲につながる。
- ・やるべきことがたくさんあったが、機器の活用があったことでほぼ授業時間内に納まっていた。
- ・タブレットPCの、児童の活用によって教え合いがあり、言語活動が促されていた。

## 6 研究のまとめ

昨年度まで数年間、実物投影機とプロジェクタを中心にして、基礎基本の習得のためのICT活用のあり方を研究してきた。これにより、日常的におけるICT機器の活用の工夫が研究され、見せ方やタイミングなどの研究成果が蓄積されてきた。今年度においても、基礎基本のためのICT活用という目標は変わらないが、研究部を始め会員のスキルアップを図るためにも、他の機器に目を向けることも今後の方向として重要ではないかということも研究部で話し合われた。そのため、今年度の研究は実物投影機ではなく、タブレットPCの活用について、授業での活用を図ってきた。タブレットPCの活用の理由としては、タブレットPCは社会一般に相当数普及してきているスマートフォンの延長ともいえ、扱いが煩わしくないという点であった。研究授業の協議では、タブレットPCの映像録画や再生の簡便さや速さ、持ち運びも含めた扱いやすさなど、たくさんのメリットが話合われ、ICT機器としての可能性を感じることができた。反面、自分は扱えそうもないと機器操作に不安を覚える声もあがり、会員のICTスキルやICT活用への意識の差の大きな開きを感じた。協議会では、木村会長から「まずは触れてみる。触れてみればすぐ慣れる。」との助言があり、授業を変えるにはまず個々の先生が意識を変える必要があるし、意識を変えさせる授業実践や研究も必要であることを感じている。今後の方向性としては、これまで培った実物投影機の活用を基本に、他の簡易なICT機器の活用についても研究を進めることで視野を広げていきたい。

向小学校 大川 英 智